



夏本番 水の事故に気をつけましょう!



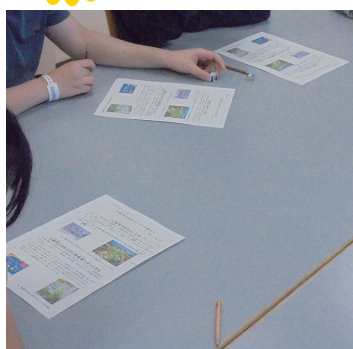
毎日暑い日が続き、いよいよ夏本番を迎える時期となりました。毎年最高気温を更新するほど、夏の暑さが厳しくなっています。こんなに暑いと海や川、プールなど水遊びをしたくなりますよね。間もなく夏休みも始まり、お出かけ計画を立てている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。せっかくのお出かけが楽しい思い出になるよう、子どもの水に関する事故についてお話します。

年々子どもの溺水事故(水に溺れる事故のこと)の発生数は減少傾向にありますが、それでもゼロではありません。0～2歳では浴槽での事故が多く、3歳以上では海や川などの自然水域での事故が多く発生しています。レジャー施設の大きなプールに行かなくても、自宅でビニールプールを使って遊ぶことはありませんか? ビニールプールは水深が浅いから大丈夫と安心してしまいかも

しれませんが、溺水事故は水の深さに関わらず起こることがあり、3cm以上の深さがあれば乳幼児は溺れる可能性があるので注意が必要です。事故が起こると状況によっては後遺症が残り、最悪の場合、命を落としてしまうこともあります。楽しい水遊びには危険も隣り合わせですから、子どもだけで水に近づかせない(行動の見守り)、天候や地形を把握して危険なところでは遊ばない(危険の把握)、水辺のレジャーではライフジャケットを着用する(安全な行動)など、こういった対策をしっかり行い、素敵な思い出をいっぱい作ってくださいね!

(小児看護専門看護師 東岡 史)

2病棟 子どもたちの生活のひとコマ



5月中旬、九州南部が異例の全国トップで梅雨入りとなりましたが、この地方は園芸日和に恵まれ、2病棟の子どもたちとスタッフとで恒例の園芸活動を行いました。

この時期に毎年蒔くのはひまわりの種ですが、ひまわりの種は種でも2011年3月11日東日本大震災を経験した「ど根性ひまわり」の子孫で、昨秋に小児病棟に入院していた子どもたちと採取した15代目の種です。

この「ど根性ひまわり」を育てる過程は、命の尊さや逞しく生きる力の大切さ、自然災害などについて考えるきっかけになっています。今回も子どもたちからは「私も嫌なことがあっても頑張って勇気を出して立ち向かう」「高校受験を諦めずに頑張る」「生きる」「ど根性ひまわりの命

がなくなってほしくないから園芸を続けたい」「16世、17世と命が繋がっていくのを考えるとわくわくします」などの声が聞かれ、園芸活動を10年以上続けている意義をスタッフも再認識できて嬉しく思いました。

ひまわりは種蒔きから1週間ほどで芽が出て、そこから約2か月で開花するといわれています。おそらく7月中旬頃には、多目的棟中庭のにじいろガーデンで、子どもたちが育て命を繋いだ「ど根性ひまわり15世」の大輪が咲くことでしょう。ご期待ください。(保育士 伊藤 真衣)

